

Ikutas kids の療育と 5 領域について

当事業所では、言語療法、作業療法、音楽療法、ABA、SST、学習といった特定の領域に特化した専門職スタッフが、ひとりひとりの発達段階に合わせて、1対1の個別療育*を直接行っております。

日々の生活のなかでの困りごとや気づき、対人関係における関わり方や伝え方、事象の捉え方や対処の仕方、感じ方などをご本人や保護者等からお話しをお聞きしたり、1対1の個別療育を行っていきなかで、専門職スタッフそれぞれの領域からの見識や経験に基づいて支援をすすめていきます。また、ひとりひとりの成長や発達状況等を考慮し、必要に応じて事業所内外との連携を図り、より望ましい状態に近づけていけるように療育を進めていきます。

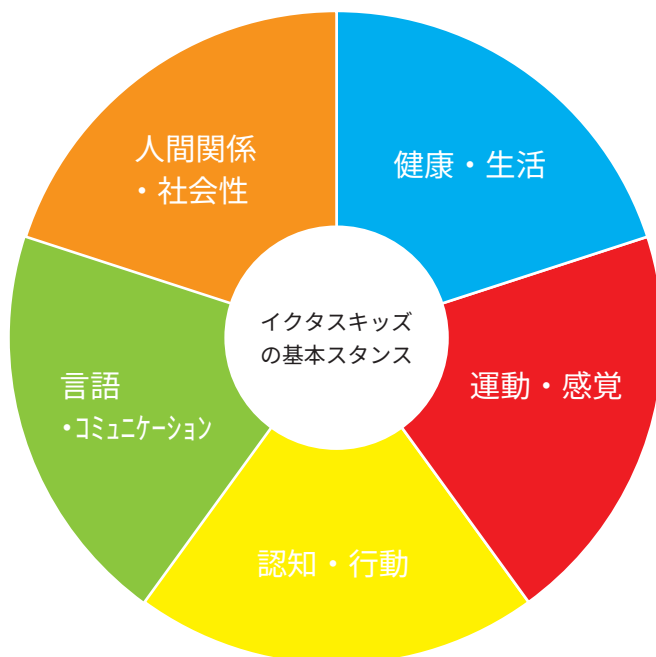
*1対1の個別療育について

当事業所の療育は基本的には専門スタッフとの1対1の療育ですが、SSTは2～3人程度の少人数でのセッションとなります。

また、療育の進捗状況によって、ペアや少人数で実施することもあります。その際は事前に打診をさせていただきます。

イクタスキッズは、アセスメントを含めて、基本の5領域の視点をおさえつつ、各専門スタッフによる専門性に特化した1対1の個別療育を行っています。

5 領域とイクタスキッズの療育との関連性



それぞれの療育の特化領域について。

作業療法は、運動、手先をはじめとする身体的な視点から、生活面、対人面での不器用さに対して、活動や遊びを通じて支援を行います。

言語療法は、コミュニケーション全体の向上を目指して、ことば・認知面・社会性など多様な面からとりくみ、日々のやりとりが円滑になるように支援していきます。

音楽療法は、親しみのある音楽やピアノをはじめとした楽器にも触れていきながら、表現や表出することの楽しさを体感してもらいながら支援を進めていきます。

SSTは、社会で生きていくために必要な技能を、ロールプレイやゲーム、制作活動を通し、お友達との関わりの中で生まれるコミュニケーションを大切にしながら支援を行います。

あらゆる行動には理由があります。ABAでは、“どうしてもできないの” “どうしてもそんなことするの”を分析し、その子に合った方法で、“こうしたらできる”に替えていくための支援を行います。

学習は、ひとりひとりのまなびの段階に合わせて、本人に合ったまなびをみつけていき、本人のペースを尊重しながら、少しずつ学習習慣が身に付いていくように支援を進めていきます。